

鎮魂の思い、歌声に重ね

レクイエム・プロジェクト

多賀城 創建1300年記念特別公演



鎮魂の思いを込めて歌う多賀城市民合唱団のメンバー

災害の犠牲者を追悼する「レクイエム・プロジェクト仙台」のコンサートが、多賀城市文化センターであった。昨年の多賀城創建1300年を記念した特別公

演で、東日本大震災の被災地でもある多賀城の市民合唱団など計1人が出演し、歌声を響かせた。

プロジェクト代表の作曲家上田益さん(68)「東京都

川が作った「大切なふるさと」や「とろきんの海」を合唱。友好都市の福岡県太宰府市の子どもたちのビデオメッセージや、観客282人と出演者による多賀城市民歌の唱和もあった。

震災当時、多賀城市の小学校で勤務していた菊池倫子さん(60)「利府町」は「震災直後に学校が避難所になったことや、14年間の復興の営みを思いながら、未来へつなぐ気持ちを込めて歌った」と話した。

プロジェクトは阪神大震災をきっかけに2008年に始まり、現在は仙台、神戸、広島の各市などで公演が行われている。多賀城では9日に開催された。一般公募した市民合唱団33人が昨年6月から18回の練習を重ね、仙台、神戸の各合唱団と共演した。